

SHORT TALK — 8TH GRAND CANVAS

AI品質のために「**工程**」に着目するべし

ビジネス価値を生む AIプロジェクトの受発注と契約

竹下 晃平 株式会社コーピー(Corpy & Co.)

2026.7.16 | 8th Grand Canvas(産業技術総合研究所)

よくあるご相談

「精度を保証してほしい」
「請負契約で進めたい」

— その契約、AIには馴染みません。

誰かが悪いわけではありません。

理由は、AIの「品質の作られ方」にあります。

従来ソフトウェアとAIでは、品質の“作られ方”が根本的に違う

従来のソフトウェア開発

設計仕様 → プログラム → 動作

- 同じ入力なら、常に同じ結果
- 完成／未完成を明確に判定できる

✓ 請負契約＋完成保証が機能する

VS

AI(機械学習)の開発

学習データ → 学習・評価 → 判断結果

- 未知の場面は、原理上保証できない
- 運用開始後も、現場の変化で精度が変動

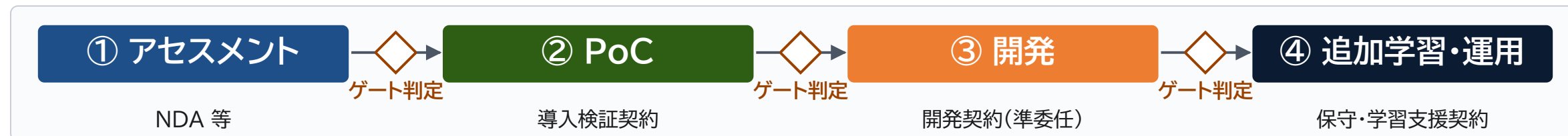
❗ 「完成」の保証・請負が馴染まない

「学習済みモデルは、…未知の入力(データ)に対しての挙動が不明確であり、…契約時点の性能保証が困難である」

出典：経済産業省「AI・データの利用に関する契約ガイドライン 1.1版」AI編 第2章

品質は、“工程”で作る。
だから、受発注も “工程” で設計する。

約束するのは、「精度」ではなく「工程」



1 段階型 各ゲートで「続ける／やめる」を判断 — 投資を段階で区切れる

2 準委任 「どの段階も準委任型が親和的」 ※免責ではない(善管注意義務)

3 継続改善 運用後の精度変動は、監視・再学習の別契約で維持する

合意するのは、「精度の約束」ではなく「工程の設計」

出典: 経産省「AI・データの利用に関する契約ガイドライン 1.1版」「AIの利用・開発に関する契約チェックリスト」／産総研「機械学習品質マネジメントGL 第4版」

答え — 検証は消えない、“移動” する

請負契約では

「完成物」を検査する

検収で仕様適合を確認

— AIでは対象を確定できない

対象が
移動する



工程型(段階型 × 準委任)では

「工程と証跡」を検査する

記録・評価レポートを

各ゲートでレビューする

条件 1 定義

合否基準を先に合意する

条件 2 証跡

記録・レポートで「証拠」を残す

条件 3 関門

各ゲートでgo / no-go を判断

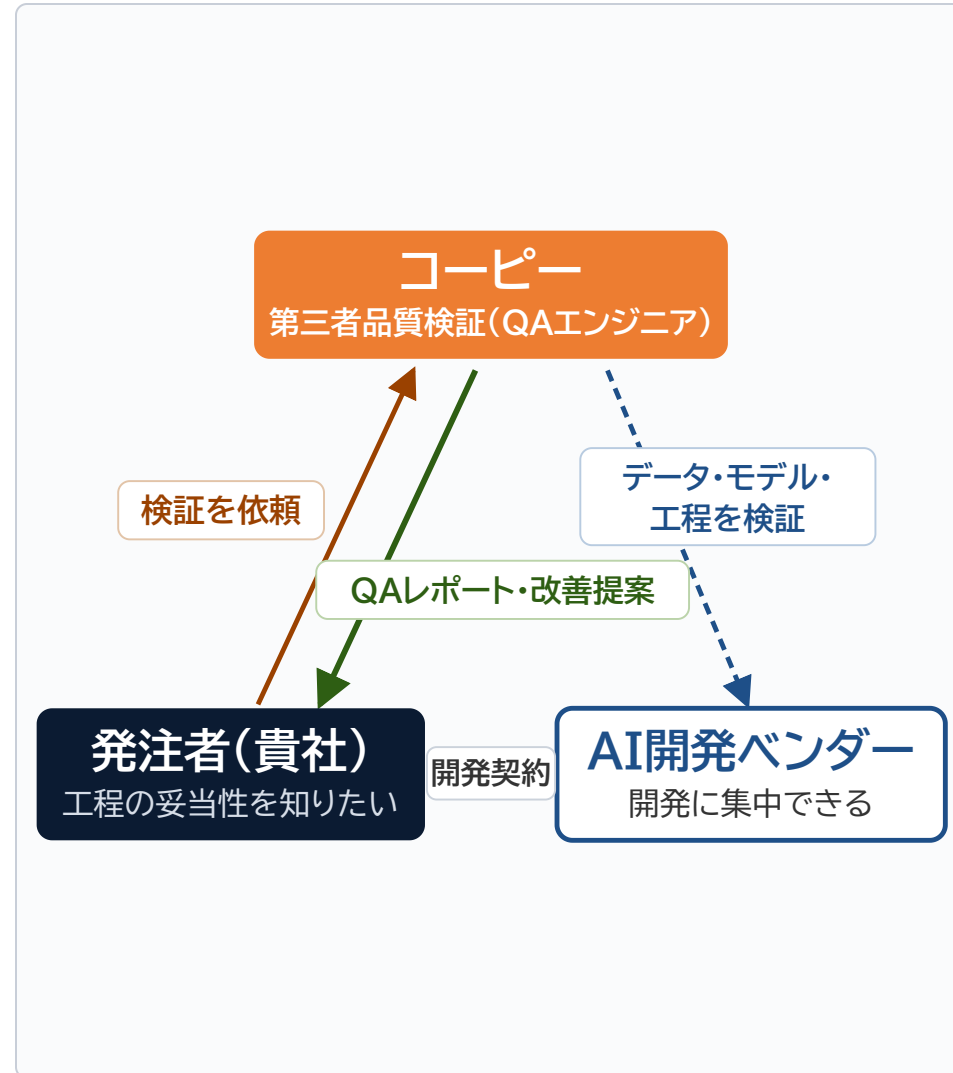
🍴 食品のHACCP・会計の内部統制監査と同じ — “全数検査できない領域” の作法

「『品質確認・検証フェーズ』においては発注側として内容に踏み込んだ理解が通常求められる」

出典:産業技術総合研究所「機械学習品質マネジメントガイドライン 第4版」§ 3.9.1.3

ただし — 正しさを判別するのは**専門技術**

「開発」と「検証」を分ける — 発注者とベンダーが同じ土俵に立てる



☰ QA4AIの5軸で検証

Data Integrity / Model Robustness / System Quality / Process Agility / Customer Expectation

📦 他社ベンダー製のAIでも検証可能
観点を絞った検証も可能

🔍 事例: 自社検証では「再現率90%超」
→ 第三者検証でデータリークを発見。「偽りの数値」と判明し、学習データの再設計を提言

👤 弊社代表はQA4AIガイドライン策定メンバー

「第三者品質検証」に加え、AIガバナンスのルールづくりも伴走します

1 現在地を可視化(AIリスク評価・ISO/IEC 42001ベース)

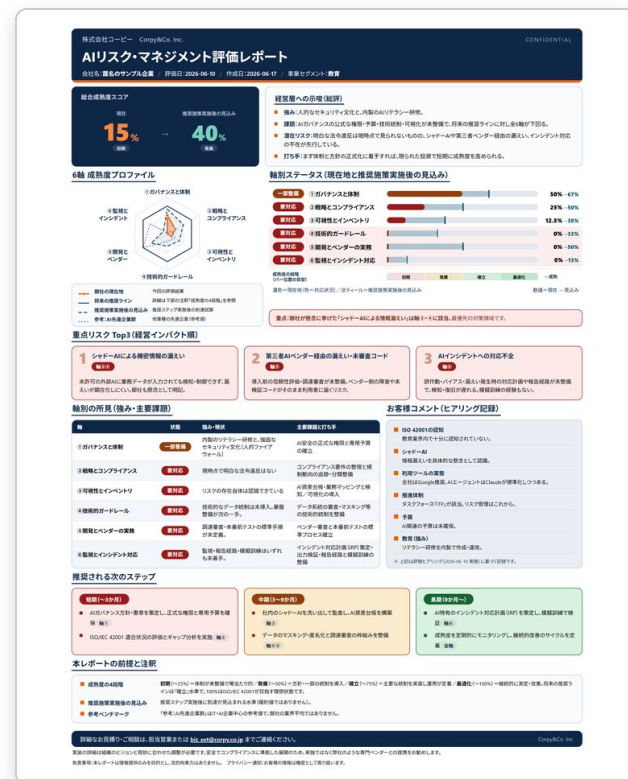
- 6軸でAI管理の成熟度をスコア化(例:15% → 40%)
- 重点リスクを特定(例:シャドーAIによる情報漏えい)

2 ロードマップ — 短期／中期／長期

- 短期:AI方針・憲章の策定、権限・予算の確保
- 中期:AI資産台帳・データマスキング・調達審査
- 長期:インシデント対応計画(IRP)と継続監視

3 御社のルールづくりを伴走

- AIポリシー策定から体制づくりまで
- 産総研ガイドライン・ISO/IEC 42001の知見を活用



コーピーのAIリスク評価レポート例 — 6軸成熟度・重点リスク・ロードマップを1枚に(匿名化)

正しいブレーキがあるから、安心してアクセルを踏める — “作って終わり”にしない

まとめ

AIの受発注に、“第三者の目”を。

品質・工程の監査は、コピーにご相談ください。

最新の成果 | 2026.4

NEDO事業「AIセーフティ強化に関する研究開発」の成果を公開
産総研・Citadel AI と共同 — ISO/IEC 42001 準拠の生成AI安全性評価を開発



takeshita@corpy.co.jp

竹下 晃平 | 株式会社コピー(Corpy & Co.)



休憩時間・オンラインQ&Aでも、お気軽にどうぞ。



メールでご相談

出典:経産省「AI・データの利用に関する契約ガイドライン 1.1版」/「AIの利用・開発に関する契約チェックリスト」/総務省・経産省「AI事業者ガイドライン 第1.2版」/産総研「機械学習品質マネジメントガイドライン 第4版」/「生成AI品質マネジメントガイドライン 第1版」(CC BY 4.0)/QA4AIコンソーシアム「AIプロダクト品質保証ガイドライン」(CC BY-SA 4.0)

CORPY & CO.